

小・中学校の 体育館に空調設備を 設置しました

児童・生徒等の熱中症予防など、安全で快適な教育環境を確保するため、小・中学校の体育館に空調設備を設置しました。夏季期間における体育の授業や部活動、また地域スポーツ団体の体育館利用時などに使用しています。



● 体育館 空調設備 ●



図教育総務課施設係・内線2469

若葉台小学校新校舎での教育活動を紹介します

若葉台小学校は、昨年度末に旧校舎から新校舎への引っ越しを行い、令和3年4月から新校舎での教育活動がスタートしました。

図教育総務課・内線2474



広い校庭で始業式を行いました。



新校舎での授業への期待に胸をふくらませています。



感染症予防のため手洗いの指導を行っています。



ピカピカの体育館で入学式を行いました。



通学路の安全確認のため集団下校を行いました。



すずかけホールで音楽鑑賞教室が開催されました。

立川市の
歴史と
文化財

45

東京府第二中学校の開設



昭和初期の府立第二中学校

現在の教育制度は6・3・3・4制で、小学校6年、中学校3年、高等学校3年、大学4年(一部6年)ですが、義務教育は小学校と中学校の9年間で、それに対し第二次世界大戦前(明治40年以降)は、義務教育は尋常小学校の6年間で、

明治19年(1886)、中学校令が公布され、中学校(修学期間5年)制度が確立されました。当時は少人数のエリート教育を目的としていて、府県1校の設立に限られていました(官立・私立は除く)。明治26年、三多摩(北・南・西多摩)地区が、神奈川県から東京府に移管されました。その時、府立の中学校は東京府尋常中学校(後の府立第一中学校、現在の都立日比谷高校、当時は現中央区)しかありませんでした。明治32年に中学校令が改正さ

れ、「男子二須要ナル高等普通教育ヲ為スヲ以テ目的」として、各府県に一つ以上の中学校の設立を義務づけました。従来府県に1校しか認めなかった中学校の設立も複数認められることになり、多摩地区にも中学校を設置する機運が高まってきました。

東京府も多摩地区に中学校を設立する意向がりましたが、具体的な場所は決まっていまませんでした。そこで北多摩郡立川村と南多摩郡八王子町との間で、招致合戦が繰り広げられました。当時の八王子町は南多摩郡のみならず、三多摩地区の最大の町で、織物を中心とした産業も盛んでした。

立川村は甲武鉄道(明治22年開通)、青梅鉄道(明治27年開通)が通っており交通は便利になりましたが、当時は養蚕が盛んな純農村でした。立川村は、学校敷地はもろんのこと教員宿舎までも寄付する方針を掲げ学校誘致を行いました。元立川市長の中嶋舜司によると、彼の祖父であり当時の北多摩郡会議長であった中嶋治郎兵衛らは土地等を寄付することも

に、西多摩郡の有力者に協力を呼びかけ、立川村への誘致を推進したとのこと。熱心な誘致の結果、中学校は立川村に設置されることになったのですが、もうひとつの理由は、当時八王子町が開けすぎていて花街等の繁華街があったため、寄宿生が多い学生の学習環境としては、閑静な立川村がふさわしいと考え

られたからと伝わっています。明治32年12月の府議会において、立川村への中学校の設置が正式に決定しました。翌年の4月に文部大臣の認可を受け、7月から工事を開始し、明治34年(1901)5月3日に東京府第二中学校(現在の都立立川高校)が開校し、同年7月に府立第二中学校に改称しました。今年が開校してから120年に当たります。

明治時代に設立された府立中学校は先に挙げた第一中学校以外には、明治33年設立の第三中学校(現在の都立兩國高校、現墨田区)と明治27年設立(当時は私立)の第四中学校(現在の都立戸山高校、設立時は現千代田区)だけでした。地理的偏りからみても、府立第二中学校が三多摩全体の中学校だといえることがわかります。

東京府第二中学校は立川駅の南側、現在の立川高校の場所に造られました。当時周辺は雑木林や桑畑ばかりで、木造ながら洋式の建築物は、大変目立ったそうです。

府立第二中学校は、立川村では最初の東京府の施設でした。府立二中の開校を端緒として、東京府原蚕種製造所(後の蚕業試験場)、や東京府農事試験場(現東京都農林総合研究センター)などが立川に誘致され、立川発展の礎となったのです。

歴史民俗資料館(生涯学習推進センター)文化財係 ☎(525)0860